

令和5年度

成田山文化財団年報

第15号

成田山仏教図書館
成田山霊光館
成田山書道美術館

目 次

成田山仏教図書館 1

概要

令和5年度事業報告

令和6年度事業予定

寄贈図書・資料

成田山霊光館 7

概要

令和5年度の活動

収蔵資料・利用状況

博物館実習・寄贈図書

令和6年度の展示予定

研究報告

成田鉄道の成田駅建設地について矢嶋 毅之

江戸期の成田山略縁起猪岡 萌菜

成田山書道美術館 18

概要

令和5年度事業報告

展示事業・展示要旨・入館者数・普及事業

収蔵資料・寄贈作品資料・貸出作品・寄贈図書

令和6年度事業予定

寄附金のお願い30

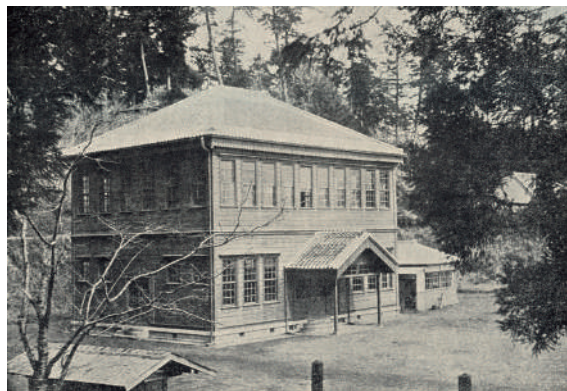
案内図・利用案内31

成田山仏教図書館

概要

当館は、成田山中興第15世貫首石川照勤僧正により、明治34年（1901）1月、時の文部大臣松田正八氏へ設置の届け出を済ませ「私立成田図書館」として設立、翌35年2月11日に開館された。

初代館長であった石川照勤は、設立開申書の中で「私儀コノ度公衆ノ閲覧ニ供センガ為メ内外ノ図書ヲ蒐集シ私立成田図書館ヲ設置仕候条此段及開申候也」と記し、この設立の精神は、「成田山の宗教的使命達成と、地方文化向上のため」「我が国の精神文化の向上のため」である、としている。



① 旧成田図書館

時代と共に老朽化・狭隘化した本館は、昭和59年10月に「市立成田図書館」が開館されたことにより、その任を譲り、昭和63年の全面改築を機に「成田山仏教図書館」と館名を変更し、蔵書の特殊性に鑑み専門図書館として運営されることとなり、今日に至っている。



② 成田山仏教図書館

蔵書の公開

図書館のホームページより、全蔵書（雑誌・研究紀要論文・雑誌論文を含む）を検索可能とし、タイトル数にして約80万件のデータベースとなっている。

ホームページURL <http://naritasanlib.jp/>

令和5年度事業報告

1. 職員

兼任2名（館長、総務課長）

常駐2名（司書1名、事務職員1名）

2. 利用状況

来館総数 1,512人

（一般／1,154人・学生／358人）

開館日数 294日

蔵書利用冊数 5,750冊

ホームページ利用者数 165,704人

蔵書検索アクセス総数 642,118件

3. 資料購入

図書 41種

新聞・雑誌（年間購読） 80誌

4. 現在蔵書数

3月末現在 338,336冊（除雑誌）

前年度比 1,313冊増

主な事業

1. ウェブ公開データ随時修正更新作業

2. 図書購入

仏教書を中心とする書籍、全集などの継続図書、既に所蔵する雑誌の欠本補充分を主に購入。

3. 資料保存

破損本の再製本、雑誌の合本製本、和装本、巻物類等の帙及び桐箱作製など。

4. 蔵書配架整備

配架スペースに入りきれなくなった図書の配架移動調整。

令和6年度事業予定

1. 職員

兼任2名（館長，総務課長）
常駐2名（司書1名，事務職員1名）

2. 開館日

火・土の2日間を通常開館、水・木・金・日
を予約閲覧日とする。自習等の閲覧室利用
は、予約閲覧日も利用可。

3. ウェブ公開データ随時修正更新作業

4. 図書購入

仏教書を中心とする書籍、全集などの継続
図書、既に所蔵する雑誌の欠本補充等を主に
購入。

5. 資料保存

破損本の修復、再製本、雑誌の合本製本、
和装本、巻物類等の帙及び桐箱作製など。

寄贈図書・資料

次の方々より、貴重な図書・資料をご寄贈頂
きました。ここに厚くお礼申し上げます。

令和5年4月～令和6年3月
（団体機関・個人 順不動）

図書、資料名・巻号	寄贈者
大原幽学記念館報告 9	旭市教育委員会
誇れる国、日本－謀略に！翻弄された近現代－ 第16回	アパグループ
公衆衛生情報 みやぎ	阿部希望氏
激動の幕末 蘭癖が行く	郁朋社
池上 59-4～60-3	池上本門寺
市立市川歴史博物館館報 R3年度	市川歴史博物館
開館40周年記念企画展「みなさまと歩んだ博物 館」	市立市川歴史博物館
更級日記千年紀文学賞受賞作品集 第3回	市原市教育委員会
竹久夢二と房総	市原善衛氏
伊能忠敬記念館年報 24	伊能忠敬記念館
伊能忠敬研究（「伊能図探求」継承 季刊「史料 と伊能図」）100, 101	伊能忠敬研究会

岩瀬弥助物語－岩瀬文庫を作った男－（マンガ
ふるさとの偉人） 岩瀬文庫
古典籍の博物館 岩瀬文庫のあゆみ 同上
図書 892～903 岩波書店
印西の歴史 14

印西市立木下交流の杜歴史資料センター
印度学宗教学会論集 49 印度学宗教学会
稲 4-3～5-2 檜田良枝氏
海の生きものの観察ノート 17 海の博物館
傘松 955～966 永平寺
放送メディア研究 16 特集 沖縄「復帰」50年
NHK放送文化研究所
円覚 342～345 円覚寺派宗務本所
大倉山論集 69 大倉精神文化研究所
大谷学報 102-1 大谷学会
三井寺 203～205 園城寺
あなのあいた壺－権現山遺跡の底部穿孔壺と墓
でつかわれた土器 春日部市郷土資料館
税理士のひみつ（仕事のひみつ編 7）

Gakken

漁業協同組合のひみつ 同上
グラスファイバーのひみつ 同上
SDGsのひみつ 同上
電気のひみつ 同上
ヘルメットの秘密 同上
水を活かす技術のひみつ 同上
mRNA（メッセンジャーアールエヌエー）のひみつ 同上
フルーツ和菓子のひみつ 同上
空気のひみつ 同上
学研まなび絵本シリーズ なりたいなせんいん
さん 同上
作物をまもるひみつ 同上
電気の安全を守るひみつ 同上
おにぎりのひみつ 同上
Wi-Fiのひみつ 同上
香取神社創建80周年記念誌 香取神社奉賛会
民具マンスリー 56-1～9
神奈川大学日本常民文化研究所
神奈川近代文学館 160～163
神奈川文学振興会
神奈川近代文学館年報 R4年度 同上
密教相承－称名寺長老の法脈－ 金沢文庫
金沢文庫研究 351, 352 同上
神の光 1149～1158 神の光社
民謡ガール 荏谷市教育委員会

川崎大師教学研究 紀要 8
 川崎大師教学研究 川崎大師教学研究
 川崎大師だより 745～756 川崎大師平間寺
 お大師さまとともに 52 同上
 汲古 83, 84 汲古書院
 九州龍谷短期大学紀要 69 九州龍谷短期大学
 真宗文化－真宗文化研究所年報－ 32
 京都光華女子大学真宗文化研究所
 清水 228～230 清水寺
 生命之光 842～853 キリスト聖書塾
 金峯山時報 680～687 金峯山時報社
 修験道 108～110 金峯山修験本宗宗務庁
 正法眼蔵をいまに遺す 久木直海氏
 拔萃のつづり 83 熊平製作所
 くらま 96-4～97-3 鞍馬寺
 ちばで見る電車&飛行機 15～17 京葉銀行
 バスで行く！千葉の小さな旅 1～8
 京葉銀行
 興福寺仏教文化講座要旨 468～479
 興福寺教学部
 高野山 37～48 高野山真言宗
 JICA MAGAZINE 12～17 国際協力機構
 仙石山仏教学論集 14 国際仏教学大学院大学
 いとくら 12 同上
 国際仏教学大学院大学研究紀要 27 同上
 日本古写経研究所研究紀要 8
 国際仏教学大学院大学附属日本古写経研究所
 BULLETIN OF THE INTERNATIONAL
 INSTITUTE FOR BUDDHIST STUDIES 5
 国際仏教学大学院大学附置国際仏教学研究
 国立国会図書館月報 744～755
 国立国会図書館
 国家学会雑誌 136-3・4～136-9・10
 国家学会
 智山現代史 五百仏会
 駒沢大学禅研究所年報 35 駒沢大学禅研究所
 駒沢大学仏教学部論集 54 駒沢大学仏教学部
 虚空 65, 66 小宮一雄氏
 わかば 900～911 金光教少年少女会連合本部
 GO-MONTHLY REVIEW- 1961.7, 8
 近藤玲子氏
 歴代名人打碁体系 全36巻 内容見本 同上
 アメリカに囲碁普及の旅－女流囲碁使節渡米報
 告－ 同上
 名人囲碁全集 全7冊 同上

置碁定石 同上
 囲碁 実践軌範 同上
 続名人囲碁全集 全6冊 同上
 御城碁譜 全10巻 同上
 広重画＜富士見百図 初編＞から新案＜富士
 二十図＞の企画・構想へ 坂井昭氏
 月刊 嵯峨 1097～1108
 嵯峨御所大覚寺嵯峨御流華道総司所
 風媒花 36 佐倉市教育委員会
 里見氏研究 2 里見氏研究会
 木津川市美術工芸品調査報告書 第1集
 佐脇貞憲氏
 古代中世絵絹集成－基底材の美術史－ 同上
 仏師快慶の研究 同上
 聖地南山城－奈良と京都を結ぶ祈りの至宝－
 同上
 浄瑠璃寺九体阿弥陀修理完成記念
 特別展 京都・南山城の仏像 同上
 三康文化研究所所報 58 三康文化研究所
 書道文化 19 四国大学書道文化学会
 遊行 225～227 時宗総本山宗務所
 四天王寺 814～819 四天王寺
 斯道文庫論集 58 斯道文庫
 芝山町埋蔵文化財調査報告書 13～15
 芝山町教育委員会
 淑徳大学研究紀要（総合福祉学部・コミュニ
 ティ政策学部） 57 淑徳大学
 浄土宗関東十八檀林 常福寺類聚 一（淑徳大
 学アーカイブス叢書12） 淑徳大学アーカイブス
 本山修験 224～226 聖護院門跡
 建築と窓 彰国社
 浄土宗新聞 675～679 浄土宗
 深草教学 34 浄土宗西山深草派宗務所
 昭和学院短期大学紀要 60 昭和学院短期大学
 白井市郷土資料館年報 20 白井市郷土資料館
 近世の伊勢参宮と芝居文化（神宮教養叢書 第
 11集） 神宮文庫
 御室派宗報 257～259 真言宗御室派宗務所
 真言宗善通寺派 宗報 141～143
 真言宗善通寺派宗務庁
 宗報 871～882 真言宗智山派宗務庁
 十巻章 本文編，訓読編 同上
 生きる力 SINGON 113～116 同上
 同朋新聞 785～797 真宗大谷派宗務所
 真宗 1429～1441 同上

新宗教新聞 1140～1145 新宗教新聞社
 神変 1282 神変社
 野村太一郎の狂言入門 杉山和也氏
 千葉市立寒川小学校創立150周年記念誌
 鈴木年樹氏
 月刊 ひかり 758～769 西山浄土宗
 W C R P 日本委員会アジェンダ2030
 世界宗教者平和会議日本委員会
 平和のための宗教－対話と協力－ 15 同上
 W C R P [WORLD CONFERENCE ON
 RELIGION AND PEACE] 521～532 同上
 地図は世につれ人につれ 千葉県誕生150周年
 記念企画展 千葉県立関宿城博物館
 全国珠算新聞 659～664 国珠算教育連盟
 浅草寺 709～718 浅草寺教化部
 浅草寺日記 補遺編 3 同上
 浅草寺仏教文化講座 67 同上
 全仏 658～660 全日本仏教会
 るりの光 246～248 総本山一畑寺
 仁和 103～105 総本山仁和寺
 袖ヶ浦市史研究 21 袖ヶ浦市郷土博物館
 傘寿記念 辻元大雲回顧書店（令和4年度企画
 展Ⅲ 袖ヶ浦の美術Ⅱ 同上
 令和5年度企画展 袖ヶ浦の外来種 同上
 コミュニティ 170 第一生命財団
 ポスチャー[POSTURE] 50 同上
 コミュニティ 171 同上
 天台学報 65 大正大学天台学会
 かがみ 53 大東急記念文庫
 跳龍 75-5～76-3 大本山総持寺出版部
 宗報大覚寺々報 大覚寺 792～802
 大本山大覚寺
 はなびら 119～122 同上
 大雄 170～173 大雄山最乗寺
 高尾山報 711～721 高尾山薬王院
 館山市立博物館報 ミュージアム発見伝 97
 館山市立博物館
 玉藻 1105～1116 玉藻社
 短詩文化研究 8号（終刊号） 短詩文化学会
 鎌倉仏教－密教の視点から－ 智山勸学会
 智山学報 72 同上
 智青 240, 241 智山青年連合会
 千葉市立郷土博物館 研究紀要 29
 千葉市立郷土博物館

酒呑童子の物語と千葉氏－逸翁本「大江山絵
 詞」をめぐる－ 千葉市立郷土博物館
 ひまわり倶楽部 R5.6 ちばぎん総合研究所
 千葉県議会史 11 千葉県議会
 千葉・県民芸術祭 第44, 45回千葉県写真展作
 品集 千葉県教育委員会
 千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告 48～53
 同上
 芸文協ちば 96 千葉県芸術文化団体協議会
 らいぶらりあん－千葉県公共図書館協会誌－
 64 千葉県公共図書館協会
 千葉県詩集 56 千葉県詩人クラブ
 千葉県勢要覧 R4年版
 千葉県総合企画部統計課
 指標で知る千葉県－千葉県統計指標－ 2023
 同上
 千葉県統計年鑑 R4年版 同上
 広報 ねこな 43 千葉県根本名川土地改良区
 千葉県の図書館 2023 千葉県立中央図書館
 千葉文化 255 同上
 千葉県立中央博物館研究報告 人文科学 16-2
 同上
 令和5年度特別展 よみがえるチバニアン期の
 古生物 同上
 千葉県の保護上重要な野生生物－千葉県レッド
 データブック－植物・菌類編 同上
 体験のしおり-体験博物館 千葉県立房総の村
 R5年度 千葉県立房総のむら
 しあわせ 534～536 千葉県労働者福祉協議会
 千葉いまむかし 36 千葉市教育委員会
 採蓮（千葉市美術館研究紀要） 24
 千葉市美術館
 ふみくら 205～208 千葉市文庫連絡協議会
 千葉職業能力開発短期大学校紀要 25
 千葉職業能力開発短期大学校
 甘藷先生の置き土産－青木昆陽と千葉のさつま
 いも－ 千葉市立郷土博物館
 チベット文化研究会報 179～181
 チベット文化研究所
 茶屋四郎次郎記念学術学会誌 13
 茶屋四郎次郎記念学術学会
 C A N D A N A 54-1～4 中央学術研究所
 中央学術研究所紀要 52 同上
 生きがい研究 HEALTHY & ACTIVE AGING
 29 長寿社会開発センター

哲学・思想論集 48, 49
 筑波大学大学院人文社会科学研究科
 論文訂正及び補説 津田修造氏
 土ノ子 51 天地之大教本部
 東京大学史料編纂所報 58
 東京大学史料編纂所
 東京大学史料編纂所研究紀要 33 同上
 東洋学研究情報センター叢刊 35
 東京大学東洋学研究情報センター
 仏教文化研究論集 23, 24
 東京大学仏教青年会
 東大寺要録 3 東大寺
 東北大学文学研究科研究年報 72
 東北大学大学院文学研究科
 東北宗教学 17, 18, 特集号
 東北大学大学院文学研究科宗教学研究室
 東洋学研究情報センター叢刊 36
 東洋学研究情報センター
 井上円了センター年報 31
 東洋大学井上円了哲学センター
 東アジア仏教学術論集 11, 12
 東洋大学東洋学研究所
 東洋学研究 60 渡辺章悟博士記念号, 61
 同上
 東洋大学東洋学研究所 研究所プロジェクト
 2021～2023 研究報告書 同上
 東洋文庫書報 54 東洋文庫
 読書推進運動 664～675 読書推進運動協議会
 徳田秀子が支えた医療革命 虎雄とともに
 徳田秀子氏
 図書館車の窓 126, 127
 「図書館車の窓」編集室
 わかりやすい土地読本 土地情報センター
 利根川文化研究 45, 46 利根川文化研究会
 ゲイシャのドレス、キモノのダンサー 日本の
 タクシーダンス・ホール 大正・昭和戦前篇
 永井良和氏
 石仏エッセイ 野の仏の風景 中野高通氏
 めぐみ 156～157 中山身語正宗伝道出版部
 成田市の文化財 54 成田市教育委員会
 成田市史研究 47 同上
 成田市内遺跡発掘調査報告書 R3年度 同上
 資料館だより 1～15 (H21.3～R5.3)
 成田市下総歴史民俗資料館

成田商工会議所だより 141～143
 成田市商工会議所
 広報なりた 1480～1503 成田市役所
 家康を支えた武将 松井忠次 西尾市岩瀬文庫
 岩瀬文庫のあゆみと主な蔵書たち 同上
 植物への恋文 本草書から牧野富太郎の手紙ま
 で 同上
 日本漢文学研究 18
 二松学舎大学東アジア学術総合研究所日本漢学
 研究センター
 雙松通説 (SOSHOTSUJIN) 29 同上
 日蓮教学研究所紀要 48 日蓮教学研究所
 正法 176 日蓮宗新聞社
 日展ニュース 184～186 日展
 日本学士院紀要 77-3～78-2 日本学士院
 日本貨幣カタログ 2023 日本貨幣商協同組合
 弘道 1143～1147 日本弘道会
 歴史と民俗 40 日本常民文化研究所
 名号塔入門－名号塔の知識－ 日本石仏協会
 インスタントラーメン図鑑
 一般社団法人日本即席食品工業協会
 P A T I P A D A (パティパダー) 29-12～
 30-11 日本テーラワータ仏教協会
 さまざまな「日日是好日」経を読む 同上
 逆境こそ生きた真理の教材です 同上
 季刊 iichiko QUARTERLY INTERCULTURAL 158～161
 日本ベリエールアートセンター
 密教学研究 55 本密教学会
 月刊 人間 613～622 人間社
 河野十全の人間読本 進歩発展する生き方－老
 化は生命の変化－ 同上
 念法時報 2057～2092 念法時報社
 鶯乃声 98-3～99-4 念法真教
 野田市郷土博物館・市民会館 年報・紀要 15
 野田市郷土博物館・市民会館
 野田市史研究 33 野田市
 歴史的資料で読み解く伊藤音次郎 長谷川隆氏
 長谷川仏教文化研究所研究年報 47
 長谷川仏教文化研究所
 近世民衆の念仏者群像－浄土宗の往生論・往生
 伝にみる－ 同上
 千葉県立銚子高等学校 旧校歌 (1959年～2007
 年) 春川光男氏
 安形浅蔵さんからの手紙 同上
 比叡山時報 818～829 比叡山時報社

「聖なる関係」があなたを癒す ビオ・マガジン
 白光 70-4～71-1 白光真宏会
 豊山教学大会紀要 51 豊山教学振興会
 常照[仏教大学図書館報] 70 仏教大学附属図書館
 仏教大学法然仏教学研究センター紀要 9 仏教大学法然仏教学研究センター
 法然房源空 述 逆修説法 同上
 道 みち 12 仏教伝道協会
 將軍の鹿狩 下（船橋市西図書館所蔵史料集
 11） 船橋市西図書館
 宗教年鑑 R5年版 文化庁
 ショトケーキ ここが知りたい！ 文芸春秋
 法学協会雑誌 140-3～140-10 法学協会
 房総の石仏 29 房総石造文化財研究会
 浄土 89-4～90-3 法然上人讃仰会
 聖徳 250, 251 法隆寺教学部
 無上道 892～903 法華宗宗務院
 第90回2022年度全国盲学校弁論大会 全国大会
 弁論集 毎日新聞社点字毎日
 楨 46 楨の会
 松戸市立博物館紀要 30 松戸市立博物館
 プラスチックのデザイン関係資料（松戸市立博
 物館館蔵資料目録 1） 同上
 松戸市立博物館年報 30 同上
 目ざめよ！ 104-1 松本阿佐子氏
 房総逍遙 II-安房・上総丘陵の四季風光－
 皆川靖氏
 いまこそ人生で大切なことは映画から学ぼう－
 小田原まちなか映画館の挑戦－ 蓑宮大介氏
 妙音 783～794, 特別号 妙音新聞社
 花園 73-4～74-3 妙心寺派宗務本所
 正法輪 73-4～74-2・3 同上
 ミルククラブ 137～140 ミルククラブ
 MEIKAI UNIVERSITY JOURNAL OF HOSPITALITY AND TOURISM 通17, 通18
 海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部
 対話のぬくもり－現代の孤独問題とカウンセリ
 ング－ 本橋英之氏
 ASIAN ICONOGRAPHIC RESOURCES MONOGRAPH SREIES 21
 森雅秀氏
 薬師寺 216～219 薬師寺
 『普賢行願讃』のテキスト資料（八事山仏教シ
 リーズ 1） 八事山仏教文化研究所
 諸訳対照法華経普門品 I～Ⅲ（八事山仏教シ
 リーズ 2） 同上

神たちの食事（八事山仏教シリーズ 3） 同上
 宇宙 185～188 山岡記念文化財団
 囲碁発陽論 全・令和翻刻版 山下拓也氏
 無盡燈 466～477 大和山出版社
 立正大学人文科学研究年報 60 立正大学人文科学研究所
 立正大学 仏教学論集 40 立正大学大学院仏教学研究会
 大崎学報 179 立正大学仏教学会
 立正大学文学部研究紀要 39 立正大学文学部
 立正大学文学部論叢 146 同上
 月刊 リベラル・タイム（L I B E R A L T I
 M E） 23-5～24-4 リベラルタイム出版社
 龍谷大学論集 499 龍谷学会
 龍谷史壇 156 龍谷大学史学会
 龍谷大学真宗学100年史 龍谷大学真宗学会
 明法 828～839 霊友会
 あした21 889～900 同上
 歴史研究 通709～通715 歴史研究会
 MAHAPITAKA NEWSLETTER NEW SERIES 29
 CHINESE TRIPITAKA BUKKYO DENDO
 KYOKAI
 COLLECTED PAPERS v o 2.1:1978-1999
 (STUDIA PHILOLOGICA BUDDHICA MONOGRAPH SERIES 34b)
 THE INTERNATIONAL INSTITUTE FOR
 BUDDHIST STUDIES

成田山靈光館



1. 概要

当館は、昭和22年（1947）5月3日に財団法人成田山文化財団の運営のもと、成田山の宗教的使命達成と地方文化の向上を目的として創立された歴史博物館である。その前身は、昭和3年6月に社会教育機関として創設された成田山新更会で、戦後まもなく組織ならびに建物等を改組して設立された。昭和46年7月には県内5番目となる登録博物館の指定を受けた。

現在の建物は昭和58年7月に新築されたもので、その翌年建立された平和大塔1階の靈光殿も共通施設として使用されたが、平成16年（2004）3月には展示施設は本館だけとなった。そして同21年4月からは、靈光殿で企画展を開催している。職員は下記の通りである。

館長 田中 照広（兼任）

総務係長 矢嶋 毅之

学芸員 猪岡 萌菜

2. 令和5年度の活動

〔展示〕

靈光殿では常設展示「成田山の歴史」をおこなっている。展示は成田山の創建から江戸時代までを対象に、成田山の創建・成田山の興隆・成田山の開帳・成田山と市川團十郎・成田詣とし、資料や写真パネルを通じて紹介している。以下、靈光殿で開催した企画展の概略を記す。

収藏品展一旗一

3/3 - 4/16

旗の素材、大きさ、形、色、図案はさまざまである。当館収蔵の旗に記された文字や模様を読み解きながら、旗の持つ意味や時代の変遷を示した。



弘法大師と成田山

4/22 - 6/18

弘法大師誕生1250年に際し、真言宗の開祖空海（弘法大師）と成田山の関わりを紹介した。



靈光館看板コレクション

6/24 - 9/3

当館収藏品の中から特に商業看板にフォーカスし、成田山の参道や成田市の歴史を伝える資料として紹介した。



昭和13年の成田山

9/9 - 12/17

昭和13年（1938）の成田山開基一千年祭に成田参光協会が開催した写真展には、千点余の応募があった。ファインダー越しの当時の成田山を紹介した。



霊光館所蔵絵画展

1 / 1 - 3 / 3

霊光館の絵画コレクションの中から、近年新たに収蔵した資料を含め、新年にふさわしい絵画を取り上げ紹介した。



3. 収蔵資料

令和5年度において寄贈または購入により受け入れた資料は73点。主な資料は以下の通り。
〔購入〕

- ・歴史資料「印旛成田町々勢一班」(大正元年)
- ・歴史資料「高雄観楓案内図」(昭和期)
- ・歴史資料「本町成田山長清寺不動尊」(昭和期・絵葉書)
- ・歴史資料「下総成田山定宿」(明治期)
- ・歴史資料「旭軒馬車案内」(明治22年)
- ・歴史資料「千葉県印旛郡成田町町勢要覧」(昭和13年)
- ・歴史資料「ポスター 十一代目市川團十郎襲名特別興行」(昭和37年)
- ・歴史資料「下総成田山新勝寺の本坊」(明治末期・絵葉書)
- ・歴史資料「銭湯の暖簾」(昭和期)
- ・歴史資料「年賀葉書」(昭和13年)
- ・歴史資料「大般若奉納記念」(大正期)
- ・歴史資料「館林千人講登山記念」(大正期)

- ・美術資料「八代目市川團十郎死絵」(嘉永7年)
- ・美術資料「当る開帳一ト口噺し」(明治6年・小林清親筆)

〔寄贈〕

- ・歴史資料「旧歌舞伎座の瓦」(昭和期)
- ・歴史資料「棟札(清瀧権現)」(昭和62年)
- ・歴史資料「成田山額」(昭和期)

4. 利用状況

〔調査など〕

- ・行徳まちづくり協議会峰崎進氏、鹿島吉夫氏、成田山所蔵仏像について調査のため来館(4/20)
- ・千葉大学大学院鈴木凜氏、佐倉宗吾関係史料調査のため来館(4/23)
- ・陸沢町立歴史民俗資料館山口文氏、額堂の絵馬について調査のため来館(4/25、7/25)
- ・東京大学大学院中村駿介氏、史料調査のため来館(4/26)
- ・葛飾区郷土と天文の博物館堀充宏氏、成田講について調査のため来館(5/10、10/4)
- ・エリート情報社原正彦氏、軽便鉄道について問い合わせのため来館(6/13)
- ・千葉県立中央博物館大多喜城分館石井友葉氏、考古資料調査のため来館(6/28)
- ・千葉県立房総のむら水島美穂氏他2名、資料調査のため来館(7/7)
- ・京都芸術大学天野あゆみ氏、成田町立物産館について調査のため来館(7/13、8/18)
- ・成田市議会議員中島圭介氏、資料のデジタル化について問い合わせのため来館(8/18)
- ・佐倉市民カレッジ一行、展示見学のため来館(9/14)
- ・成田高校深田富佐夫氏、芝優太氏、長沼関係史料について問い合わせのため来館(9/24)
- ・荒川区文化団体連盟菅谷安男氏他8名、展示室見学のため来館(10/13)
- ・山本佳典氏、御料牧場について問い合わせのため来館(10/17)
- ・下総歴史民俗資料館寺内博之氏、関東大震災の資料について問い合わせのため来館(10/21)
- ・NHK東北支社千葉美穂氏、成田山節分会について問い合わせのため来館(12/24)

- ・NHK東北支社千葉美穂氏他2名、資料撮影のため来館（1/24）
- ・明治大学有原寛氏、考古資料調査のため来館（2/9）

〔貸出・提供〕

- ・祐天寺発行『続祐天寺資料集』第2巻（令和7年3月31日刊行予定）へ、「祐天上人御利生の図」「当世人形つくしの内祐天の図」「東錦浮世稿談一祐天上人」の画像使用を許可（5/1）
- ・千葉県立房総のむら令和5年度トピックス展「千葉の行商一小さなからだ大きなカゴと一」（令和5年9月23日～11月12日）へ、「成田駅発 改正時刻表」を貸出（8/23）
- ・山川出版社『Japanese History for Highschool/英文詳説日本史』（令和6年2月刊行）へ、「火消千組の図」の画像使用を許可（12/1）
- ・中村駿介氏執筆論文「近世成田門前町の土地経営：成田門前町の都市建築史研究（その1）」『日本建築学会計画系論文集』89-815（令和6年1月刊行）、同東京大学博士学位論文「近世門前の経営と都市」（令和6年3月）へ、石井しげ家文書「質屋渡世之儀ニ付奉申上候書付」他46点の掲載を許可（12/13）
- ・葛飾区郷土と天文の博物館特別展「THE ご利益」（令和5年12月9日～令和6年2月12日）へ、「講中記（文化10年）」を貸出（1/16）
- ・NHK「首都圏イチオシ！懐かしの節分会～千葉・成田山」（令和6年2月11日放送）へ、「玉屋内白玉」「成田参詣図」「奉納請取帳」（文化11年）の画像使用を許可（2/5）
- ・JR東日本新幹線社内誌『トランヴェール』2024年5月号へ、『成田名所図会』挿絵「込へ追こむの図」の画像使用を許可（3/10）

5. 博物館実習

9月6日から13日まで博物館実習を実施した。受け入れた学生の内訳は以下の通りである。

川村学園女子大学	1名
日本女子大学	1名
学習院女子大学	1名

6. 寄贈図書（令和5年4月～令和6年3月）

博物館だより 177～180	岩手県立博物館
年報 令和4年度	東北歴史博物館
館報 17号	稲敷市歴史民俗資料館
稲敷市古文書目録 第二集	同上
稲敷の寺院調査報告③	同上
神栖市近世史料集 第一集 人見家文書三	神栖市歴史民俗資料館
あなのあいた壺 図録	春日部市郷土資料館
かわはく 75～77	埼玉県立川の博物館
紀要 23	同上
一宮町の指定文化財	一宮町教員委員会
川城昭一氏収集文書調査報告書	同上
みなさまと歩んだ博物館 図録	市立市川歴史博物館
年報 24・25	伊能忠敬記念館
印西の歴史 14	印西市
令和3年度印西市内遺跡発掘調査報告書	印西市教育委員会
本埜地区の石造物	同上
研究紀要 5	印西市立印旛歴史民俗資料館
令和3年度柏市市内遺跡発掘調査報告	柏市教育委員会
柏市埋蔵文化財調査報告書 104・105	同上
如春堂・芳野家住宅 柏市建造物調査報告書 6	同上
柏市文化財保存活用地域計画	同上
年報 第36号	鎌ヶ谷市郷土資料館
郷土資料館だより 63～66	同上
香取 123・124	香取神宮崇敬会
令和4年度君津市内遺跡発掘調査報告書	君津市教育委員会
いにしえが、好き 図録	国立歴史民俗博物館
陰陽師とは何者か 図録	同上
要覧 2023年度	同上
研究報告 238～241	同上
REKIHAKU 9～11	同上
里見氏研究 2号	里見氏研究会
墨古沢は日本の中心であった 記録集	酒々井町教育委員会
城と城下にみる戦国大名の権威 講演会記録集	同上
かおりだより 7・8	同上
芝山町埋蔵文化財調査報告書 14	芝山町教育委員会

根切台遺跡	同上	資料館だより 15	成田市下総歴史民俗資料館
中堀越遺跡	同上	ふるさと 43	成田市文化財保護協会公津支部
アーカイブズ・ニュース 27		川崎山遺跡	有限会社原史文化研究所
	淑徳大学アーカイブス	島田込の内遺跡	同上
年報 20	白井市郷土資料館	野田の剣術・剣道史 図録	野田市郷土博物館
令和4年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書		令和4年度船橋市内遺跡発掘調査報告書	
	袖ヶ浦市教育委員会		船橋市教育委員会
笊田遺跡(6)	同上	東中山台遺跡群(81)	同上
宮ノ後ろ遺跡(6)	同上	宝塚遺跡(1・2)	同上
要覧 2023	袖ヶ浦市郷土博物館	夏見台遺跡(11)(52)(74)(75)	同上
辻元大雲回顧書展 図録	同上	中野木向遺跡(5)	同上
袖ヶ浦市史研究 21	同上	東町遺跡(3)	同上
館報 97	館山市立博物館	宮本台遺跡(84)	同上
供養する人々 図録	同上	宮本台遺跡群(52)	同上
房総の文化財 62	千葉県教育振興財団	千葉県船橋市佐倉道南遺跡(3)	同上
研究連絡誌 87・88	同上	年報 令和4年度	船橋市郷土資料館
文化財センター年報 48	同上	みゅーじあむ・船橋 20・21	同上
会報 117~118	千葉県文化財保護協会	紀要 29	船橋市立飛ノ台史跡公園博物館
ちばの博物館 149	千葉県博物館協会	ガッコウの下の遺跡 図録	同上
千葉県の文書館 29	千葉県文書館	とびはくへのトビラ 図録	同上
市原市分目岡田(利)家文書目録 5	同上	令和3年度松戸市内遺跡発掘調査報告書	
日記のなかの関東大震災 図録	同上		松戸市教育委員会
地図は世につれ人につれ 図録		八ヶ崎遺跡第23地点発掘調査報告書	同上
	千葉県立関宿城博物館	小金城跡第20地点発掘調査報告書	
千葉市史 史料編11 近代2	千葉市		株式会社東京航業研究所
千葉いまむかし 36	千葉市教育委員会	根戸高野台遺跡(10次)	
ちば市史編さん便り 30・31	千葉市史編さん担当		株式会社地域文化研究所
紀要 24号	千葉市美術館	八ヶ崎遺跡第27地点発掘調査報告書	
研究紀要 29	千葉市立郷土博物館		株式会社イオク
酒呑童子の物語と千葉氏 講演録		千葉県松戸市牧之内遺跡	松戸市遺跡調査会
	千葉市・千葉大学	松戸市内貝層サンプル整理報告書	同上
令和3年度富里市内遺跡発掘調査報告書		茂原市史 資料編I(原始・古代、中世考古)	茂原市
	富里市教育委員会	千葉三郎関係文書調査報告書(上)(下)	
年報 45	流山市立博物館		茂原市教育委員会
博物館だより 4	同上	市内遺跡等発掘調査報告書	
花咲台遺跡I地点埋蔵文化財発掘調査報告書			八千代市教育委員会
	習志野市教育委員会	公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅹ	同上
清瀧権現堂保存修理写真帳	成田山新勝寺	白幡前遺跡i地点	同上
成田山照範伝	同上	勝田大作遺跡g地点	同上
法談 69号	成田山法談会	米本城跡c地点	同上
紀要 44~46	成田山仏教研究所	笹塚塚群(1号塚)	同上
令和3年度成田市内遺跡発掘調査報告書		平沢遺跡c地点・f地点	同上
	成田市教育委員会	埋やちよ 46・47	同上
成田市史研究 47	同上	財やちよ 7	同上
成田市の文化財 第54集	同上		

令和3年度四街道市内遺跡発掘調査報告書
四街道市教育委員会
国府台 26
和洋女子大学文化資料館・博物館学課程
郷土佐倉の刀剣に寄せる想いを綴る 井原重之
後藤神輿とその時代 行徳まちづくり協議会
紀要 24 板橋区立郷土資料館
震災後100年 いたばしの現代化 図録 同上
いたばしの富士山信仰 図録 同上
第21回 歴史民俗研究 板橋区教育委員会
紀要 14 江戸東京博物館
美術館ニュース 293～296 サントリー美術館
紀要 21号 相撲博物館
京成らいん 745～752 京成電鉄
Theご利益 図録 葛飾区郷土と天文の博物館
浮世絵に描かれたかつしか 図録 同上
葛西城址・青戸御殿出土資料集 5 同上
博物館だより 2023 春号・夏号・冬号 同上
百万塔 175～177 紙の博物館
博物館だより 84・85 家具の博物館
研究報告 第40輯 国学院大学博物館
博物館学紀要 第48輯
国学院大学博物館学研究室
国学院大学博物館学研究 第3号 同上
大東文化大学博物館学講座だより 17
大東文化大学博物館学講座運営委員会
年報 38 たばこと塩の博物館
芥川龍之介がみた江戸・東京 図録 同上
画像史料解析センター通信 100～102
東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター
研究紀要 33 東京大学史料編纂所
所報 58号 同上
金鯢叢書 50 徳川黎明会
日展ニュース 184～186 日展
新工芸ニュース 90 日本新工芸家連盟
あるむぜお 144～146 府中市郷土の森博物館
自由民権 36 町田市立自由民権資料館
美術文化史論集 16 三井記念美術館
三井高利と越後屋 図録 同上
三井家伝世の至宝に関する文化史的考察 同上
港区指定文化財 令和4年度 港区教育委員会
丹波篠山藩青山家屋敷跡遺跡発掘調査報告書
同上
芝三嶋町町屋発掘調査報告書 同上
研究紀要 2 港区立郷土歴史館

館報 3 同上
春桃院跡遺跡・善福寺寺域遺跡発掘調査報告書
株式会社ピーオーリアルエステート
続祐天寺史資料集 第一巻 祐天寺研究室
紀要 46号 早稲田大学演劇博物館
ニューズレター 13 同上
史観 188・189 早稲田大学史学会
北条氏展 図録
鎌倉国宝館・鎌倉歴史文化交流館
民具マンスリー 661～672
神奈川大学日本常民文化研究所
歴史と民俗 40 同上
友の会会報 197～200 熱川バナナワニ園研究室
自然と文化 46 平塚市博物館
年報 46 同上
研究報告 67 横須賀市自然・人文博物館
開港のひろば 155・156 横浜開港資料館
館報 27号 久能山東照宮博物館
資料館だより 237～240 沼津市歴史民俗資料館
あなたと博物館 243～247 松本市立博物館
至極の大衆文化-浮世絵 図録 同上
まつもと博覧会 図録 同上
美術館だより 475～486 石川県立美術館
名古屋成田山 827～837 成田山大聖寺
博物館学年報54 同志社大学博物館学芸員課程
京都府埋蔵文化財情報 144～146
京都府埋蔵文化財調査研究センター
京都の遺跡 13 同上
館報 54 住友史料館
年報 令和4年度 大阪歴史博物館
紀要 31 園田学園女子大学近松研究所
民俗博物館だより 114 奈良県立民俗博物館
館報 36 天理参考館
霊宝館だより 142～145 高野山霊宝館
子規博だより 157・158
松山市立子規記念博物館
萩 107～110 山口県立萩美術館・浦上記念館
館報 35 熊本市立熊本博物館
くまはく NEWS LETTER 9・10 同上
世界の大翼竜展 図録 同上
REIMEI 41-1～41-4
鹿児島県歴史・美術センター黎明館

7. 令和6年度の展示予定

展示場所は成田山平和大塔1階霊光殿。企画展示の概要および展示期間は以下の通り。

和田三造画像昭和職業絵づくし展 3/9 - 6/2

旗の兵庫県出身の洋画家・和田三造（1883-1967）が様々な職業にたずさわる人々の様子を描いた木版画《昭和職業絵尽》は、10年余の歳月をかけて準備していたといわれている。作品は昭和14年から16年にかけて48点、戦争により中断を経て、昭和29年から31年にかけて24点が刊行された。今回は戦前に発行された48点のうち34点を紹介。

お不動様の眷属—矜羯羅童子と制吒迦童子—

6/8 - 9/1

成田山の本尊不動明王像は、眷属の矜羯羅童子と制吒迦童子を脇侍として伴う姿で表されている。本展では脇侍の矜羯羅・制多迦に注目する。

成田山ゆかりの歌舞伎役者 9/7 - 12/8

市川團十郎をはじめとする歌舞伎役者の成田山信仰を紹介。

霊光館の浮世絵 1/1 - 3/2

当館所蔵の浮世絵コレクションの中から名品を紹介する。

8. 研究報告

成田鉄道の成田駅建設地について

矢嶋 毅之

明治30年（1897）1月に成田鉄道（現JR成田線）は佐倉・成田間の営業を開始した。開業後の明治31年2月、終点地である佐原まで開通した。その後成田鉄道は、我孫子までの路線延伸を計画し、明治34年4月、我孫子・成田間が開通した。そして、大正9年（1920）9月に国有化、昭和62年（1987）4月に国鉄民営化により東日本旅客鉄道（JR東日本）に承継され、平成3年（1991）3月には成田・成田空港駅間が開業し、現在に至っている。現在のJR成田駅は、京成成田駅とともに門前町の玄関口として多くの参詣者を迎えている。

成田鉄道は明治26年7月に創立願書を提出している（願書提出時は下総鉄道。のちに社名を成田鉄道に改称。以下成田鉄道と表記）。同社は佐倉を起点に成田を経て佐原を終点とする路線計画を立てた。【第1図】は、明治40年の門前町周辺をしめしたもので、この頃成田鉄道は、佐原へ向かう路線と我孫子へ向かう路線が営業している。創立願書には路線計画地図が添付されていた。その予定線を【第1図】に示してみた。これは現在の国道51号線にほぼ相当する。路線計画地図には明確な駅の位置は示されていないが、成田山参詣の利便向上を目的としているので、成田山の門前に可能な限り近い場所を



【第1図】

想定していたであろう。そうであれば現在の東町もしくは田町辺りで、門前から500mの地点となり、J R 成田駅が門前から1.2kmの地点にあることを考えれば、参拝者にとっては、便利であると言えよう。

それでは当初想定していた場所になぜ成田駅は設置されなかったのでしょうか。成田駅設置に関わる経緯について史料を通じて考察したい。なお、小稿で紹介している史料は全て当館所蔵史料である。

さて成田への鉄道敷設に最も熱心であったのは成田山の住職三池照鳳（1848-96）であった。照鳳上人は嘉永元年（1848）生まれ、安政4年（1857）に入山し、深川不動堂の副住職などを経て、明治16年に住職に就いた。このとき照鳳上人は34歳、その前の住職であった照輪上人（1815-1882）が晋山した際52歳であったことから大きく若返りしたことになる。

照鳳上人は深川・横浜・川越の別院の確立、そしてあらたに札幌・函館に別院を建立するなど成田山不動信仰の教線拡大に務めた。さらに成田英漢義塾（成田高校の前身）を創設し、地方子弟の中等教育機関を設立した。江戸時代中期に始まる成田山信仰の広まりは明治になっても人気は高く多くの人々が参詣していた。そうしたなかで、照鳳上人は信徒のために成田への鉄道敷設に取り組んだのである。

前述した創立願書に照鳳上人は他の6名の発起人総代とともに名を連ねている。成田鉄道は関東の霊場として多くの参詣者が訪れる成田山への輸送力向上と商品集積地として繁栄する佐原への敷設を目的としている。

願書提出時の発起人株主は95名で、このうち佐原町は36名、門前町成田では照鳳上人が筆頭株主ではあるが、9名であった。佐原と比較すると少なく、門前町は鉄道敷設の機運が盛り上がっていなかったようだ。

成田鉄道は創立願書に線路見込書を添付している。【第2図】は、線路見込書の挿図のひとつで、成田・佐原間を結ぶ路線において、成田を出て十余三・伊能を経て佐原に至る第1線（十余三線）、成田を出て滑河・神崎を経て佐原に至る第2線（滑河線）が描かれている。この2線を以下に記す理由により、成田鉄道は第1線を推奨している。

- ・十余三線が滑河線より4里短い
- ・十余三線は水害を蒙る箇所なし
- ・十余三線は利根川沿岸の舟運業者など

将来水害が予想される第2線ではなく、工事費を抑える点からも第1線をのぞむ会社側の思惑は理解できよう。

成田鉄道は願書提出後、すぐ許可は出なかった。そして11月、総武鉄道（現JR総武線）と協議し、総武鉄道が申請していた佐倉・佐原間の路線計画を成田鉄道に譲渡した。競争相手がなくなり成田への鉄道敷設が実現へと進んだ。

明治27年7月20日、総武鉄道が市川・佐倉間の営業を開始した。明治5年に新橋・横浜間が開業してから、22年の年月を経てようやく千葉県に鉄道が開業した。

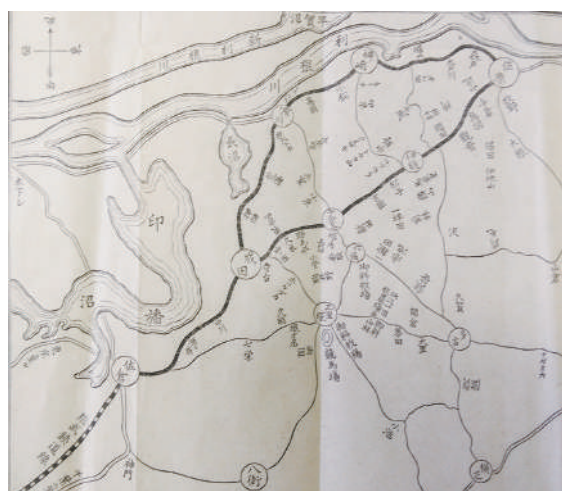
この時総武鉄道は、市川を起点に船橋・千葉を経て佐倉を終点とした。市川・佐倉間を約90分で結び、市川・佐倉間は1日5本が運転されていた。そして開業初日から10日間は格安の運賃で営業した。

総武鉄道開業後、門前町にはこれまでにない大きな変化が起こっていた。佐倉駅に列車が到着するたびに、成田山に向かう参詣者ができるという現象が起きていた。この参詣者の流れを照鳳上人から住職を引き継いだ石川照勤は「其の後中々参詣人モ多ク汽車の到着ごとに殆ど春期のごとし」と7月26日付の書簡に記している。この年の1月、照鳳上人は病氣療養のため弟子の照勤に住職の座を譲った。7月・8月は参詣者減少期であるが、総武鉄道の開通が季節を問わない参詣者の流れを創出させた。成田山の重役である三橋重郎兵衛も8月1日付の照鳳上人宛ての書簡に「（総武鉄道が）汽車賃金正価に復したるため一昨日より来客減少したが、とにかく鉄道の効力は大なるものにて、この夏枯時でも三月頃の好景気に比すべき無上の喜び」と記し、総武鉄道の開通による集客を喜んでいる。

この変化に門前の若松楼（若松旅館）は、8月1日から30日まで宿泊料半額サービスを開始すると新聞に広告を掲載し、さらなる参詣客の獲得を図った。

成田鉄道は7月25日に仮免状が交付され、路線の実測に取り掛かった。三橋は、仮免状の交付を喜ぶと同時に「只心に懸り候は当地停車場の位置」と記し、今後成田駅の位置に関わる懸

念を伝えている。



【第2図】

総武鉄道の開通がもたらした効果に門前町の人々、商人らは、成田駅の設置場所が彼らの生計に大きな影響を及ぼすことを察知した。

8月13日付の照鳳上人宛ての照勤上人の書簡には、成田駅の位置について、本宿・仲町・上壱番町・上貳番町の代表者4人が駅を台へ設置したいとの希望を伝えに来たと記している。本宿などの4町は門前町を形成し、代表者が希望する「台」とは現在JR成田駅付近をさしている。近世後期から成田には多くの人が集まり、参詣者相手の宿屋や飯屋などの商家が建ち並び、門前町として発達していた。この頃、参道の入口である、権現山付近は未開発地であり、駅の設置場所としては適していたといえる。

門前町の代表者が会社に願い出るのではなく、成田山の住職に願い出ていることも当時の門前町の状況を物語っている。この代表者の意向に成田山も同意してほしいとの考えであろう。しかし、この町の要望に照勤上人は「出来るだけ骨を折る」と答えている。このとき照勤上人は26歳であった。明治2年に生まれ、同11年に成田山に入山、以後同26年まで修行・勉強に励み、照鳳上人の後を任された。寺務経験のない照勤上人にとって町の要望に即断することはできなかったようだ。

同日、成田山の役人である立崎貞助も照鳳上人に成田駅設置に関わる状況を以下のように伝えている。成田駅の位置について、横町・仲町の有志は日々参集し、是非台へ設置するよう奔走している。これに反して本宿・田町の人々は

会社が営利上砂田辺へ設置することを考えているとし、下の方へ設置する様運動している。

このように成田駅の設置をめぐり、門前町において意見が分かれていたことがわかる。また立崎の書簡にあるように、会社側は営利上の観点から砂田（現田町）付近に駅の設置を考えていたことも確認できる。

9月29日、小倉良則らが成田駅の件で照勤上人を訪ねた。小倉は久住村出身（現成田市）で、この時衆議院議員であった。照鳳上人と同様、成田への鉄道敷設に尽力し、下総鉄道の発起人であった。

照勤上人は小倉らとの協議の結果を照鳳上人に伝えているが、書面には「大抵当方町民の希望通りに参りそうに被思候」とある。小倉は駅設置場所について会社の意向を伝えたと思うが、その点は照鳳上人には伝えず、照勤上人は駅の位置は「町民の希望通り」になると伝えている。

10月2日、町の有力者である諸岡勝太郎・大野市兵衛のもとに小倉から駅の件で「面白からぬ書面」が届いたと、照勤上人は照鳳上人宛ての書簡に記している。諸岡・大野にとって面白からぬ内容とは何であろう。駅の設置場所を当初の方針である「下」である砂田辺りにしようとするものであろう。

10月25日付の照鳳上人宛ての立崎の書簡には、駅の設置について町民間に多少の運動があり、台・横町・仲町など過半の人々の望むところになるとし、それらに反対するほどの運動はないと伝えている。

さらに11月30日付の照鳳上人宛ての諸岡の書簡には駅設置の件について「色々談判の末当方の見込み通りに相成候」とあり、大方決着がついたように見られる。

続いて12月1日付で照鳳上人宛ての立崎の書簡にも諸岡らから聞いた話として「鉄道停車場の位置は成田多数の希望の処に略決定いたし候」とある。

これら照鳳上人宛ての書簡により、成田鉄道の成田駅設置に関して、会社側の方針を覆す動きがあったことがわかる。その発端はさほど鉄道に関心のなかった門前町が総武鉄道の開通がもたらした新しい人の流れを認識したことにあると考えられる。会社側の方針通りに駅が設置されれば、新たな人の流れが創出され、門前町

の衰運につながると判断し、町民一体となって町民の望む場所への駅設置運動を起こしたと考えられる。

その際、町は新勝寺と一体化して展開しようと思ったはずだが、青年照勤上人は積極的な介入は示していなかった。また成田山側である三橋や立崎も町の動きをつたえるのみで、駅の位置について立場・考えを明らかにしていない。療養中の照鳳上人に配慮したとも考えられるが、門前町と共存・共栄する考えもあったのでなかろうか。

ともあれ、成田駅の位置は、会社側の方針は覆され、参道の入口付近に決まった。

開業後の成田町の株主数が大幅に増えることはなかったが、成田町は共有地が駅または路線に関われば、成田鉄道に寄付した。こうした行為は成田町の鉄道敷設に向けた熱意の一端として理解できよう。

【主要参考文献】

- ・白土貞夫「成田鉄道の建設とその背景」（『成田市史研究』2号、1973年）
- ・『成田市史 通史編 近現代編』（1986年）
- ・『成田市史近代編史料集5 産業・経済』（1983年）

江戸期の成田山略縁起

猪岡 萌葉

江戸期の成田山では、開帳の際、縁起を漢字仮名まじりの平易な文章にしたうえで振り仮名を付した略縁起を頒布していた。現状、江戸期の略縁起は、元禄16年（1703）、文化12年（1815）、安政2年（1855）の3種が伝存し、現在は成田山仏教図書館に所蔵されている。

略縁起の本文については、『成田山新勝寺史料集』第1巻（大本山成田山新勝寺、2006年）に、文化12年版が翻刻掲載されている。その内容は、天慶2年（939）に勃発した平将門の乱の平定に際し、勅命を受けた寛朝僧正が、高雄山神護寺護摩堂の不動明王像を捧持して関東に下向し調伏の護摩祈祷をしたことにちなむ成田山の開山縁起と、生実大巖寺開山の浄土宗僧道誉上人が成田不動の剣を呑んで聡明になったという霊験譚を載せ、これによって本尊不動明王の霊験を説くというものである。

本稿では、現存している3種の略縁起について、書誌学的な見地から、それぞれの資料の共通点や相違点を整理することを目的とする。

上述の通り、取り上げるのは江戸期の略縁起3点である。仏教図書館の請求記号は口0013-70。なお仏教図書館には他に口0013-74として文化12年と安政2年の略縁起2種があるが、口0013-70と同一のものであるので、本稿では前者を取り上げる。

①元禄16年 成田山略縁起

法量（横×縦） 15.8cm×24.2cm

表紙含め6丁

見返し「成田山不動堂開基自天慶三庚子年
元禄十六癸未年迄七百六十四年也」

②文化12年 成田山略縁起

法量 15.2cm×23.5cm

表紙含め6丁

見返し「成田山不動堂開基自天慶三庚子年
文化十二乙亥年迄八百七十六年也」

裏表紙「再版願主

新吉原 成井氏」

③安政2年 成田山略縁起

法量 15.8cm×24.1cm

表紙含め4丁、後欠

見返し「成田山不動堂開基自天慶三年庚子之歳
至安政二季乙卯之歳迄九百十有六年也」

いずれの縁起も見返しに開基からの年数が記される他、1丁と6丁を除く4丁分には柱の部分に「一」～「四」の番号が付され、丁数が示される。ただし安政2年の略縁起は仏教図書館に所蔵されている2点（口0013-70および口0013-74）はいずれも、後半何丁分かが失われている。よって前半部分しか比較検討はできないが、これら3点の略縁起は、本文の字句の表記に僅かな異同が見られるものの、内容はいずれも共通し、文言や言い回しの大幅な変更は見られない。

【図1】はそれぞれの縁起の表紙を並べたものである。ここからも一見して明らかのように、いずれの縁起も異なる版木が用いられている。これは表紙だけでなく本文も同様で、略縁起はその都度版木を新たに用意して版行されたことが窺える。

また、②には裏表紙に「再版願主 新吉原成井氏」と記されている。この新吉原の成井氏がいかなる人物か、現状では判然としないが、略縁起の版行（再版）に江戸の信徒が願主として関与していたことが示される点は興味深い。その際金銭的な出資が当然あったはずで、浄財や物品の奉納以外にもこのような形での寄進があったものとみられる。

なお①と②はわずかな表記の違いが見られるだけで、改行箇所等は共通しており、②の文化12年の縁起は裏表紙に「再版」とある通り、それ以前に既に版行されていた略縁起をそっくりそのまま新しく刷り直す意味合いがあったものと思われる。②の6丁目を見ると、末尾数行と「成田山神護新勝寺」の表記の掠れが目立つことから、開帳の際の略縁起がそれなりに大量に刷られ、版木の摩耗が著しかった可能性も想像されよう【図2】。

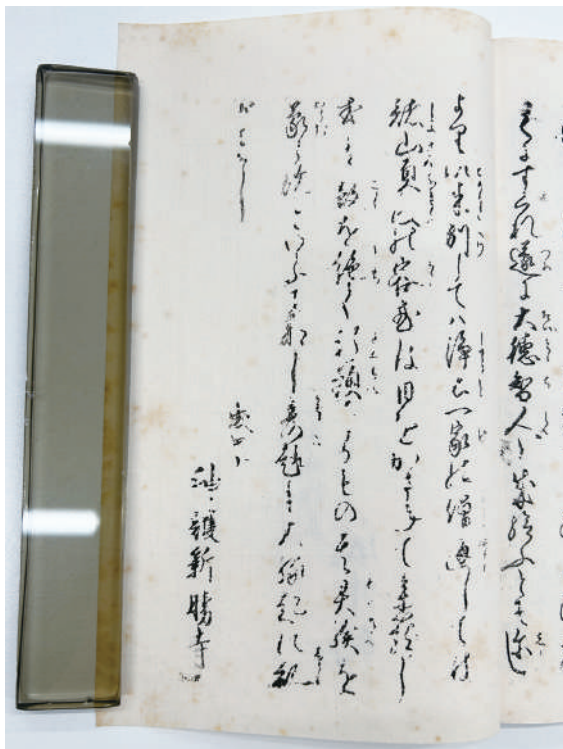
①②は裏表紙の願主名の表記以外に大きな相違点が見られない一方で、③は見返しの文言や改行位置が、他2点とはやや異なっている。細かな字句の表記だけでなく、特に大きな相違点

として挙げられるのは、「不動明王」「不動尊」「弘法大師」「朱雀天皇」といった文言に対して平出が用いられている点である【図3】。それ以前の①②では、「朱雀天皇」や「勅命」のように、天皇に関わる語に対して闕字が見られるのみであったが、③では敬意を示す対象がより広くなり、しかもそれらの語に対して闕字ではなく平出が徹底して用いられているということになる。

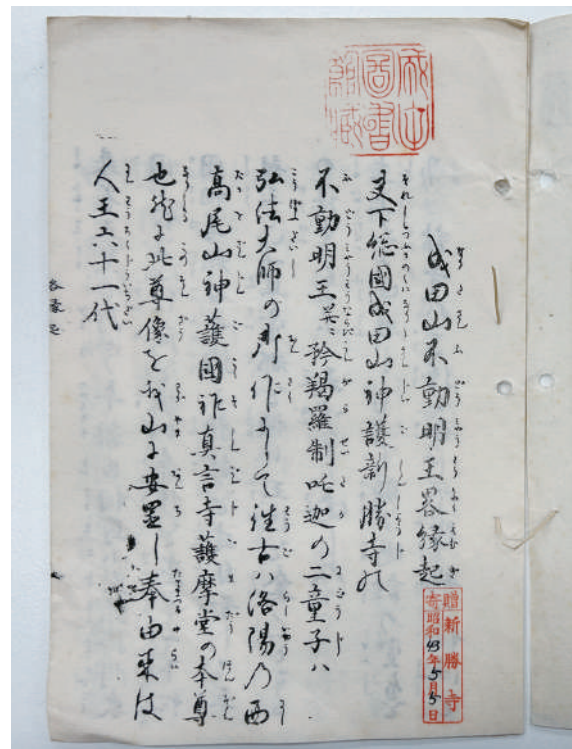
こうした変化は、単に改版の結果起こったものと見ることもできよう。しかし同時代的な社会情勢に鑑みるならば、幕末期にあたる安政2年は、黒船来航やその後の開国を受け、天皇が存在感を増して尊王の機運が高まりつつあった時代である。あえて想像をたくましくするならば、そうした社会的背景との何らかの関係を考慮してもいいのではなかろうか。



【図1】成田山略縁起 左から順に①元禄16年、②文化12年、③安政2年



【図2】文化12年略縁起末尾



【図3】安政2年略縁起冒頭

成田山書道美術館



概要

当館は、書道文化向上と芸術普及の発展に資することを目的として、平成4年（1992）11月1日に開館。公益財団法人成田山文化財団を母体とする書の総合美術館で、成田山新勝寺に参詣される多くの方々の篤志により活動している。

収蔵品は、近現代の書作品を中心に古筆や古写経、中国の拓本なども充実しており、現在6,000余点を数える。展示は、あらゆる角度から書が楽しめるよう、毎回新鮮な展示を心掛けながら、年6～7回のペースで企画展を開催。

立地は、東京ドーム約3.5個分の面積を有する広大な日本庭園、成田山公園の一角に位置するため、四季折々の自然美と調和のとれた美術館となっており、作品とともに空間も楽しむことができる。

令和5年度事業報告

職員数 11名

兼任 2名（館長、課長）

常勤 6名（男2・女4）

非常勤 3名（嘱託1・パート2）

1. 展示事業

令和5年度、次の展示事業を行った。

展示1・2階展示会場

- ・尾崎邑鵬展
第39回成田山全国競書展
- ・弘法大師ご誕生1250年記念 成田山の美術
- ・収蔵優品展 大きな字
- ・収蔵優品選 幕末明治の書
- ・生誕100年 小山やす子展
- ・新春特別展 書の紙
- ・競書40年 現代の書

展覧会名称／期間	展示場／作品数	入館者数／開館日数
尾崎邑鵬展 第39回成田山全国競書展 4月1日（金）～4月16日（日）	1階/35点・2階/62点 1階/優秀作品350点	3,041名／46日 1,079名／14日
弘法大師ご誕生1250年記念 成田山の美術 4月22日（土）～6月18日（日）	1・2階／58点	2,523名／49日
収蔵優品展 大きな字 7月1日（土）～8月20日（日）	1・2階／49点	1,531名／44日
収蔵優品選 幕末明治の書 8月26日（土）～10月15日（日）	1・2階／79点	1,405名／44日
生誕100年 小山やす子展 10月21日（土）～12月17日（日）	1・2階／54点	5,937名／50日
新春特別展 書の紙 1月1日（月）～2月18日（日）	1・2階／194点	3,787名／43日
競書40年 現代の書 2月24日（土）～3月24日（日）	1・2階／90点	908名／26日

展示要旨

尾崎邑鵬展

第39回成田山全国競書展

尾崎邑鵬の生誕100年を記念した本展は、昭和38年日展特選から新作まで全38点と愛蔵の書や『由源』誌などの関係資料を展示し、尾崎の書業80年の歩みを振り返る機会となった。現代書壇を代表する作家の一人だが、新旧の作品が揃う初の大規模な展覧会とあって注目を集めた。

新型コロナウイルスが落ち着き、開幕式と人数を制限してオープングレセプションを開催することができた。成田山からは岸田照泰貫首をはじめ寺務長や館長が出席し、書道界や美術業界の関係の方々、由源社会員合わせて100名の方にご参加いただいた。晋山記念に奉納された作品と展覧会に合わせてご寄贈いただいた作品の寄贈式も執り行うことができた。

会期中は、書家は会派を越え全国各地から来館され、熱心に丁寧に見学される姿が印象的だった。何度も足繁く通う方もいらっしや、入館者数は3000人を超えた。

本展の図録は、幅広い年代の作品と詳細な年表、『由源』誌の手本類や創刊から尾崎が手掛ける『由源』編集後記を掲載し、尾崎の書業をまとめることができたと感じている。展覧会とともに多くの反響をいただけた。



展示風景

弘法大師ご誕生1250年記念 成田山の美術

今回は1858（安政5）年に建立された重要文化財の釈迦堂に注目し、狩野一信の複数の絵画をメインに掲げた。また、弘法大師ご誕生1250年記念大祭に合わせ、成田山らしさを表す展示

内容とした。

ポスターに部分を採用した「釈迦文殊普賢四天王十大弟子図」は「五百羅漢像」以上に注目されてもよい美術であるが、成田ボランティアガイドをはじめとする一般の方へは、まったく浸透していない寺宝であることを実感した。数年後、展覧会名に「狩野一信の美術」と銘打った企画で再度紹介したい。

来館者の属性は正確には把握していないが、特別な法要期間に連動して訪れた層も一定数いたものと思われる。また、高校生以下の若年層の来館者は全体の約16%でいつもより比率が高い。背景には、成田国際高校とあずさ第一高校から団体見学の利用があったことや、6月11日に中学生以下の子どもも同伴で無料開放したことが挙げられる。ただ、後者のイベントは天候に恵まれず、晴れていればもっと数字は伸びただろう。未来を担う子どもたちに、成田山の「祈りの力」を伝えていきたい。

インバウンド面では、会期途中から入口に簡易な英語案内の看板を設けてから少し入館者が増えている。この展覧会では全体の約7%程である。各方面でこちらの周知を続け、10%台となるように努めて参りたい。

広報に関しては、各種SNSを使い、定期的に発信した。地元根差した報道機関はていねいな取材をしてくれたが、大手の報道機関にはとりあげてもらうことができなかった。成田山らしさを如実に示す一級品の美術があることを世間一般にお伝えできるよう、今後も努めていきたい。美術館単独の発信力では限界を感じており、今後は成田山新勝寺や成田市観光協会等、地域との連携を深めることで、広報活動の充実を図り、入館者増に繋げたい。



展示風景

収蔵優品展 大きな字

今回は、近年のパフォーマンス書道の盛行や、活発に開催される個展での作品の大作化に着目して、大きい字の魅力に特化した展覧会を計画した。抽象的なタイトルでの企画にすることによって、従来「難しいもの」として書の展覧会を敬遠しがちであった新たな来館層に関心を持ってもらいたいという狙いも加味していた。

会期中は夏休みということもあり、中高生や若い世代、外国人などの来館が普段よりも見られた。普段よりも地域情報を扱うミニコミ紙の反応がよく、記事になったことも要因の一つであろう。例年暑さで来館者が減少するこの時期に、一層の酷暑の中、反響を得られたことには手ごたえを感じている。

今回、ミニコミ紙などの記事掲載が多かった要因には展覧会の開幕時期も影響があったようだ。各紙が夏休みの企画号として発行する7月初めの掲載号に7月1日開幕の本展はタイミングとしてタイムリーだったのだろう。全ての媒体に合わせた展覧会編成は難しいものの、ターゲットとしている層に受け入れやすい日程を組む配慮が好結果につながることで改めて確認できた。この経験を今後に生かしていきたい。



展示風景

収蔵優品選 幕末明治の書

近代の書をテーマとして企画した本展は、書道史という範疇に捉われず、政治家や文化人、幕末の志士といった時代を担った名家を展示対象とした。団体説明や質問への回答などから推測すると、来館者は書愛好者に加え、歴史愛好

者と思われる幅広い層の関心を得たようである。



展示風景

書の愉しみは単に熟練した技法を辿り、書いてある言葉を読むことだけにあるのではなく、背景にある思想や書者の人生を併せ見て想いを馳せるところにある。書家に限定しない名家を展示対象にするこのような展覧会は、新たな来館層に書の奥深さを伝えるよい機会となるはずである。

当館の収蔵の中核をなす近現代の日本の書は、突き詰めれば日本の近現代を記録した資料の宝庫でもある。ユネスコの無形文化遺産登録への機運が高まる現在、よりグローバルな視点をもって展覧会を考える必要があるのかも知れない。

生誕100年 小山やす子展

生誕100年記念として開催した本展は、当館の収蔵品を中心に39点の作品と資料とをあわせて展示し、小山の書業を回顧する機会となった。幅広い年代の作を出品し、制作の軌跡を感じていただけたと思う。開催にあたって、図録制作や資料のご提供、座談会の開催など、ご遺族及び玉青会にご協力をいただいた。改めて感謝申し上げます。

「小山やす子を語る」と題した座談会では、小山門下の名和玉芳先生、杉山玉秀先生、小川みよ子先生、中嶋玉華先生に作家の書に対する姿勢や志向、指導方法や印象深い思い出など、様々な立場からお話いただいた。

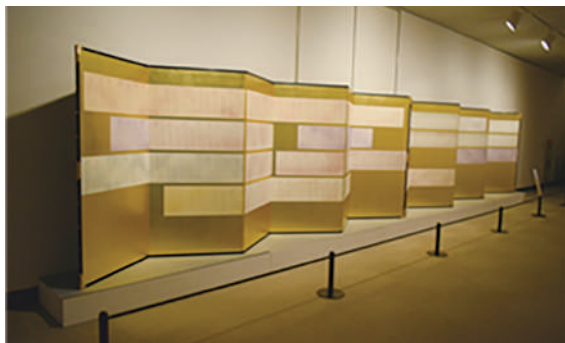
会期中、紅葉まつりが開催されたことから散策の途中に来館された方も多く、無料開館日の二日間を含めても6000人もの入館があったこと

は、展覧会に対する注目度が高かったことを実感する。同時期に東京では日展が開催されていたこともあり、遠方からの来館者も多く見受けられた。

毎日書道展開催時期にあわせて葉書を作成し、8月頃から広報し始めたためか、展覧会の案内が行き渡り、早い段階で取材も多かった。各美術雑誌や新聞、SNSなどで取り上げていただいた影響力は大きい。

本展に合わせて作成した図録は、作品全点と小山の言葉や『玉青』誌を取め、資料的価値の高い一冊になった。展覧会と図録と合わせて小山の書業を十分に再検証できた。

本年は生誕100年を記念して、尾崎邑鵬と小山やす子の二名の現代作家を取り上げることとなった。現代書壇を代表する二人の書業を紹介できたことは、現代の作品を扱う当館にとって、意義深いものであった。戦後から活躍する二人の作品コレクションは、書道界の流れも追うことが出来る。今後も様々な展覧の機会があるだろう。大いに活用していきたい。



展示風景

新春特別展 書の紙

今回の展覧会では、書を書くための紙の加工に焦点をあて、無地の紙から装飾を凝らした平安古筆や天平の写経まで、紙の装飾をテーマに展示を構成した。普段とは違う「紙」の視点から書を鑑賞する企画とあって、珍しく感じていただけたのかもしれない。書の愛好者、専門家の来館も比較的多く、2～3時間ゆっくりと見学される方も少なくなかった。例年この時期は、参詣にあわせて来館される方が多く、無料入館者比率が高いことが多いが、本展は有料入館者が6割であった。それだけ、展覧会を目的とし

た来館者が多かったといえよう。本展とは別会場で「西行憧憬・高木厚人展」が開催されたことも、関心を寄せていただけた要因の一つかもしれない。それぞれの展覧会を目的に来館された方が、もう一方の展覧会にも興味を持つという相乗効果をもたらした機会となった。



展示風景

展覧会にあわせて作成した図録は、来館者の1割以上の方が購入しており、遠方で展覧会には来られないが図録を求める郵送での注文も多数見受けられた。読売新聞や千葉日報などの報道機関や来館者のブログ等SNSで紹介されたことで、広く浸透したようである。後半にかけて入館者数が伸びていたが、こうした案内は会期終盤に取り上げられることが多いため、今後は展覧会開幕前に積極的に情報発信する必要性を感じた。

和紙文化研究家の大柳久栄氏を講師に招き、蘇芳の植物を用いた浸け染めと紙をしなやかにする打紙の体験講座は、参加希望者が定員16名をはるかに上回り、参加をお断りせざるを得なかった。当館では紙に関する講座が初めてで、料紙制作に対する関心値が高いことを実感した。二日間の講座は、一日目に染め、二日目に打紙を行った。楮紙を蘇芳の染料に浸けて染め、アルミ媒染と鉄媒染とを一人二枚ずつ計四枚を完成させた。翌日、蘇芳染めアルミ媒染、鉄媒染を各一枚ずつと、素紙一枚を木槌で叩いて打紙を施した。打紙の有無を体感していただけるようどちらも持ち帰れるようにし、試筆は各自行っていただくようにした。実習が主であったが、紙の歴史や実習の補足となる講義もあり、より理解を深めることができた。参加者にとってもなかなか体験することができない新たな発見ができた充実した二日間となったに違いない。

また別日に、料紙作りを身近に感じていただ

く機会として簡易な葉書サイズの唐紙体験を企画した。小学生から年配の方まで70名の参加があり、こうした体験から「鑑賞する上での視野が広がった」「イベントがきっかけで美術館へ来た」などの感想をいただいた。今後もこのような企画を考えていきたい。

広報活動や会期中にギャラリートークを行うなど、改善すべき点はあるが、総じて展覧会、図録、イベントともに来館者が高い満足感を得ていることが伺えたことは今後の励みになった。

2. 入館者数

	月別	入館者（開館日数）	1日平均
5年	4月	1,539名（22日）	70名
	5月	1,318名（26日）	50名
	6月	757名（16日）	47名
	7月	787名（26日）	30名
	8月	905名（23日）	39名
	9月	722名（26日）	27名
	10月	911名（22日）	41名
	11月	4,597名（26日）	176名
	12月	952名（15日）	63名
6年	1月	2,151名（27日）	79名
	2月	1,886名（21日）	89名
	3月	658名（21日）	31名
5年度合計		17,183名（271日）	63名

3. 普及事業

＜展示広報＞

- ・展示において、ポスター・案内はがき・展示目録を作成。各所への配布・掲示により、集客力の向上を図った。
- ・小山やす子展図録を1,200部発行。
- ・書の紙展図録を1,000部発行。
- ・案内リーフレット（日本語・英語・中国語）を成田空港や空港周辺ホテルなど近隣施設に配架。
- ・新勝寺企画課と連携し、報道機関および関係施設へのプレスリリースを実施。

＜講演会・座談会＞

- ・千葉県書道協会の研修にて当館学芸員の山崎が講演会を実施
演題「成田山書道美術館の特徴」
10月21日（土）14時～



講演会風景

・生誕100年小山やす子展

演題「小山やす子先生を語る」パネラー 名
和玉芳氏、杉山玉秀氏、小川みよ子氏、中嶋
玉華氏
11月5日（土）13時～



座談会風景

- ・大東退任一区切り（1）西行憧憬・高木厚人展
第一回演題「陳列作品解説を中心に」
講師 高木厚人氏 2月4日（日）11時～
第二回演題「伝・西行古典の魅力」
講師 高木厚人氏 2月10日（土）11時～

＜体験講座＞

- ・染紙・打紙体験講座
講師 大柳久栄氏、陽一氏
1月20日（土）第1部 10時～12時
第2部 13時30分～15時30分
1月21日（日）10時～12時
参加者 17名（事前予約制）



体験講座風景

- ・唐紙体験 講師 田村彩華（学芸員）
2月11日（日）10時～15時 参加者70名

＜成田山文化財団年報の発行＞

「令和4年度 成田山文化財団年報 第14号」を3館（成田山仏教図書館・成田山霊光館・成田山書道美術館）合同で制作。PDFダウンロード方式に変更。

＜ホームページ＞

充実したホームページの公開に努めるとともにSNSの即応性を利用した素早い広報（情報発信）により、書道愛好家への興味関心を促す。また、休館中に開設した「学芸員のブログ」は好評につき、継続して閲覧を可能とした。

URL：<https://www.naritashodo.jp/>



HP



Facebook



Twitter

＜博物館実習生の受け入れ＞

本年度は、次の大学より6名を受け入れた。
二松学舎大学 5名、聖徳大学 1名
(11/14～11/19)

＜奈良市杉岡華邨書道美術館との連携＞

3年間継続で貸出開催している松崎コレクション展の最終回。また、当館学芸員（田村）を講師として書道講座を実施。

演題「古筆手鑑『濱千鳥』と衣手」

4月22日（土）14時～



講演会風景

＜成田高校附属小学校との連携＞

当館学芸員（谷本）が附属小学校5・6年生の書道授業を担当（6、7、12、1月の28時間）。なお、授業で制作された書作品は、当館会議室にて「書き初め展」として展示発表された。



展示風景

＜研修見学＞

教育機関との連携授業および書道関係などの団体見学で、学芸員により展示解説を行った。

- ・大東文化大学一行 103名 5月21、28日
- ・成田国際高校一行 92名 6月5～15日
- ・あずさ第一高校一行 60名 6月9日
- ・大東文化大学書道部一行 33名 7月16日
- ・筑波大学一行 27名 7月22日
- ・中日青少年書道交流展訪日団一行 24名 8月5日
- ・加須市美術連盟一行 20名 9月24日
- ・高尾山有喜講一行 34名 10月1日
- ・成田市生涯大学院一行 33名 11月29日
- ・千葉県高校書道部会一行 45名 12月13日
- ・成田高校附属小学校一行 67名 1月31日
2月1日

<紅葉まつりイベント>

紅葉まつりの協賛イベントとして「クラフト展－手仕事いろいろ 13」を研修室にて開催。

11/18,19 入館者数 2,918名（入館無料）



クラフト展風景

<会議室・研修室の貸出>

当館では、2階会議室及び研修室を地域文化の発展を目的に書道だけでなく芸術全般に関する発表や創作の場として提供している。

令和5年度の主な利用団体および個人

- ・大東文化大学書道部の特別閲覧
- ・筑波大学の特別閲覧
- ・千葉県高校書道部会による書道研修
- ・成高付属小書き初め展
- ・爽風会書道教室
- ・玉手かな書道教室
- ・成田写仏会
- ・渡貫書道教室
- ・日本伝統俳句協会
- ・不動の庭で遊ぶ会（俳句）
- ・かつらぎ俳句会
- ・その他展覧会・ヨガ教室等 6件

4. 収蔵資料（6年3月31日現在）

- ・作品数 6,226件
- ・図書数 9,019冊

【寄贈作品・資料】

次の方々より、貴重な作品をご寄贈頂きました。ここに、厚くお礼申し上げます。

作品・資料名	寄贈者
・松井如流 作品他 3件	藤本弘之氏
・川島桂山 作品 1件	川嶋英彦氏
・森川竹窓 作品 1件	高橋利郎氏

・柳 碧蘇 作品 1件	柳 碧蘇氏
・梅原清山 作品 1件	林 弘美氏
・辻本史邑 作品他 2件	尾崎呂鵬氏
・綿引滔天 作品 1件	林 弘美氏
・香川峰雲 作品 81件	香川倫子氏
・真神巍堂 作品 1件	真神巍堂氏
・奥田家山 作品 3件	佐藤知子氏
・小川瓦木 作品他 2件	小川艸岑氏

【貸出作品】

- ・奈良市杉岡華邨書道美術館 「松崎コレクションの古筆と古写経展③」へ 古筆、古写経作品 19件
- ・産経国際書会 「産経国際書会40年」へ 廣津雲仙、田中真洲作品 2件
- ・「板垣洞仙傘寿書展」へ 板垣洞仙作品 1件
- ・東京国立博物館 「本阿弥光悦の大宇宙」へ 本阿弥光悦作品 1件
- ・千葉市美術館 「サムライ、浮世絵師になる鳥文斎栄之」へ 大田蜀山人作品 1件
- ・徳島県立文学書道館 「角元正燦-書は自画像である」へ 角元正燦作品 2件

【寄贈図書】

個人や団体など各方面の方々より、図書資料のご寄贈がありました。ここにご芳名を記し、お礼申し上げます。

図書名	寄贈者
わたしが描く-コレクションでたどる女性画家たち	會津八一記念館
會津八一と棟方志功－知性と感性－	同上
石飛流 書道好日	石飛博光氏
稲敷の寺院調査報告 3	稲敷市立歴史民俗資料館
市立市川考古博物館館報 50	市立市川考古博物館
遺伝子からみた古代のイヌ	同上
一東 554-564	一東書道会
出光美術館研究紀要 28	出光美術館
出光美術館館報 196,197	同上
しりとりに 日本美術	同上
稲敷市立歴史民俗資料館館報 17	稲敷市立歴史民俗資料館
稲敷市古文書目録 第二集	同上

般若心経印譜 稲村龍谷氏
 稲村龍谷篆刻作品集 同上
 伊能忠敬記念館年報 24 伊能忠敬記念館
 NHK放送博物館だより 69 NHK放送博物館
 黄檗文華 142 黄檗文化研究所
 博物館学芸員課程年報 24 桜美林大学
 大洗町幕末と明治の博物館報 11
 大洗町幕末と明治の博物館
 懐かしの水浜電車と大洗の観光 同上
 書は命 大井錦亭遺墨集実行委員会
 先人書画文芸探訪、あの日あの時 岡村鉄琴氏
 新潟県文人研究 26 同上
 尾崎邑鵬 書の風景 尾崎邑鵬展実行委員会
 第40回記念 雅涎会書展 雅涎会
 道風 道風記念館だより 66-69
 春日井市道風記念館
 人と書～日本の書の息吹～ 同上
 香取 123,124 香取神宮崇敬会
 神奈川近代文学館 160-163 神奈川近代文学館
 現代女流書100人展 金木和子氏
 百万塔 175,176 - 紙の博物館機関誌 -
 紙の博物館
 第11回 寄鶴文社書展 寄鶴文社
 日本近世美術研究 5 北島古美術研究所
 裏腹のいとは よすが 岐阜現代美術館
 書道 II 教育出版
 視覚の現場 8,9 きょうと視覚文化振興財団
 抜萃のつづり 83 クマヒラホールディングス
 古文化研究 黒川古文化研究所紀要 22
 黒川古文化研究所
 桑原翠邦が求めた書展 作品集
 桑原翠邦が求めた書展実行委員会
 墨 282-287 芸術新聞社
 38の書斎 書家が語る文化と墨縁 同上
 謙慎書道会展役員作品図録 謙慎書道会
 若木書法 22 國學院大學
 五島美術館研究紀要 11 五島美術館
 今日の学書 657 今日の学書社
 澤田東江から齋田東野へー唐様の書の原点・王
 羲之をめざしてー 齋田記念館
 宮澤賢治ー沢村澄子 現象的書展 沢村澄子氏
 産経国際書会40年の歩み 産経国際書会
 田中鳳柳コレクション 中国 明・清の書画名
 品展（第40回産経展特別企画） 同上
 第40回記念 産経国際書展 同上

産経国際書会40年ーそのはじまりと歩みー同上
 想 見上げる先に耳を澄ませば 篠田桃紅美術空間
 下妻氏ふるさと博物館年報 18
 下妻市ふるさと博物館
 宗教新聞 798,807 宗教新聞社
 修美 145,146 修美社
 書海 1184-1194 書海社
 書星 926-936 書星会
 第71回書星展 同上
 書声 793-803 書声会
 日本書法 55,56 書道芸術社
 書道日本 850-861 書道日本社
 たいわー語り伝える白井の歴史ー 38
 白井市郷土史の会
 白井市郷土資料館年報 20 白井市郷土資料館
 新千葉タイムス 350-352 新千葉タイムス
 美術の窓 476-486 生活の友社
 正筆 1095 正筆会
 第51回 日本の書展 全国書美術振興会
 全書芸 873-883 全日本書芸文化院
 書教 創立90周年記念誌 全日本書道教育協会
 書教 777-778 同上
 第36回全日本篆刻連盟展 全日本篆刻連盟
 全日本美術 825-832 全日本美術新聞社
 創玄 131 創玄書道会
 傘寿記念辻元大雲回顧展 袖ヶ浦市郷土博物館
 袖ヶ浦市史研究 21 同上
 大東書学 23 大東文化大学書道学会
 桐墨 14 大東文化大学書道研究所
 大東 書道研究 30 同上
 大東書道 639-649 同上
 書道学論集 20 大東文化大学大学院書道学専攻
 令和4年度 研究集録 大東文化大学大学院
 華山会報 49,50 田原市博物館
 田原の文化 45,46 研究紀要 11,12 同上
 海から広がる渥美半島展 同上
 千葉県書道協会会報 91 千葉県書道協会
 第72回県展 千葉県美術会
 山下麻衣+小林直人 もし太陽に名前がなかつ
 たら 千葉県立美術館
 しおさい 200-202（千葉県立美術館友の会だよ
 り） 同上
 酒天童子の物語と千葉氏～逸翁本『大江山絵
 詞』をめぐって～ 千葉市・千葉大学

採蓮 24 (千葉市美術館研究紀要) 千葉市美術館
 中日会報 208-211 中部日本書道会
 和漢の調べ 土橋靖子書展 土橋靖子氏
 本阿弥光悦の大宇宙 東京国立博物館
 もっと知りたい 日本の書 東京美術
 東京文化財研究所概要 2023東京文化財研究所
 美術史学 44
 東北大学大学院文学研究科美術史学講座
 葵 127-129 徳川美術館
 石飛博光-律動する書 徳島県立文学書道館
 水脈 19 (徳島県立文学書道館研究紀要) 同上
 ことのは 81-84 (徳島県立文学書道館ニュー
 ス) 同上
 小坂奇石-自作の漢詩を書く 同上
 勝瀬景流-力強く、流麗な仮名 同上
 角元正燦-書は自画像である 同上
 独立広報 133,134 独立書人団
 令和4年度 民間非営利団体実態調査報告
 内閣府
 五鳳と華邨-共に咲く師弟の歩み-
 奈良市杉岡華邨書道美術館
 京都教育大学で学んだ書家群像 同上
 名古屋成田山 827-836
 成田山名古屋別院大聖寺
 法談 69 成田山法談会
 成田市史研究 47 成田市教育委員会
 なりた市の文化財 54 同上
 成田市書道協会展 成田市書道協会
 日展ニュース 184,185 日展
 日本近代文学館 313-317 日本近代文学館
 第41回日本詩文書作家協会書展
 -詩歌と書の世界- 日本詩文書作家協会
 学術研究助成成果論文集 8 日本習字教育財団
 日本習字 かな部 540 同上
 書の美 254-264 日本書学研究会
 2023 伝統と創意 第77回日本書芸院展作品集
 日本書芸院
 書道美術 811 日本書道美術院
 野田の剣術・剣道史 野田市立郷土博物館
 書道全集他計11種 橋本充子氏
 美じょん新報 283-293 ビジョン企画出版社
 飛驒の遺墨との邂逅 飛驒高山まちの博物館
 少登の指 1,2 平野白鳥氏
 見る・日本文学会 同上
 貞氏墨縁 同上

遊歩漫筆 同上
 右卿賞受賞記念 貞政少登近作集 同上
 貞政少登 自用印集 同上
 研墨会彷徨 同上
 貞政少登作品集 III 同上
 貞政少登 同上
 貞政少登作品集 同上
 仏教タイムス 2984 仏教タイムス社
 豊道春海顕彰会会報 19 豊道春海顕彰会
 文房清玩珍藏-百八選- 宝研堂
 墨芳 827-836 墨芳会
 第45回墨華書道展作品集 78 墨華書道研究会
 墨華 626-634 同上
 真神巍堂の書 真神巍堂書作展実行委員会
 コノキ. ミクオ時のページをめくるII
 松山庭園美術館
 三井美術文化史論集 16 三井記念美術館
 三井高利と越後屋
 -三井家創業期の事業と文化- 同上
 書III 光村図書
 研究紀要 2 港区立郷土歴史館
 港区立郷土歴史館館報 3 同上
 令和4年度 港区指定文化財 同上
 目の眼 568 目の眼
 八千代市立郷土博物館年報 29
 八千代市立郷土博物館
 印章刻まれてきた歴史と文化 山梨県立博物館
 由源 653-664 由源社
 呉昌碩 與沈石友尺牘 第三 (第46回由源社展
 開催記念) 同上
 平安かな書道入門-古筆の見方と学び方
 雄山閣
 万年筆の旅 20,21 吉村昭記念文学館
 長崎と私-吉村昭百七回の探訪- 同上
 読売書法会会報 79-81 読売書法会
 第61回 藍筍会書作展 藍筍会
 国府台 26 和洋女子大学
 退職記念 井上清雅書法展-古代文字書法の表
 現研究- 和洋女子大学書道研究室

5. 調査・研究

- ・館蔵作品及び各展覧会開催に伴う調査。
- ・成田山新勝寺および周辺財団で所蔵する美術資料の調査。
- ・学校や地域との連携に関する調査・研究。
- ・書に関する広汎な研究。

6. その他

<売店について>

館内受付協の売店（ミュージアムショップ）では、文房四宝・各種書道用具をはじめ書籍や展示図録などを販売。受付に申し出ることにより売店のみの利用も可能。

令和6年度事業予定表

1. 展示事業

展 覧 会 名 及 び 概 要		開 催 期 間
1	○収蔵優品展 生誕110年歿後50年 徳野大空を中心に 書道界初の日展特選受賞者の一人として、戦後書壇の中枢を担った徳野大空の書業を作品とともに回顧する。併せて大空と関係の深い作家や、同時代に活躍した作家の作品も展覧する。壁面芸術としての書の隆盛の契機となった時代を検証することで現代の書の魅力に迫る。	6年 4月27日（土） ～6月16日（日）
2	○収蔵優品展 生誕160年近藤雪竹の周辺 近藤雪竹は、日本書道会や日本書道作振会などに参加して指導的な役割を果たしている。金石から明清に至るまでの名家の書を学び、なかでも隸書の名手として注目された。当館で所蔵する雪竹の作品を中心に、師である日下部鳴鶴や雪竹に指導を受けた戦後書壇で活躍した作家などの作品も展示する。	6月22日（土） ～8月4日（日）
3	○千葉県書道協会役員展 千葉県書道協会は、書が日展に参加する以前の昭和22年に設立後、約80年間にわたり千葉の書を牽引し続けている。協会の中核を担う役員は、全国的に活躍する作家が集っており、多彩な活動を展開している。本展では主に戦後の千葉の書に影響を与えた先人の作品とともに展覧する。	10月19日（土） ～12月15日（日）
4	○新春特別展 成田山の美術 新勝寺や成田山文化財団の所蔵品を中心に、さまざまな時代の名品を展覧する。成田山の諸堂を彩ってきた工芸や書画などの文化財を通じて、成田山に寄り添ってきた人びとの想いをひもといっていく。	7年 1月1日（水） ～2月16日（日）
5	○収蔵優品展 篆・隸・楷・行・草・仮名－書体をめぐる書の表現－ 書体は歴史とともに変化してきた。篆書や隸書、変体仮名など今日では読みにくいものでも書の表現の一端として使われている。本展ではそれぞれの書体の歴史を知ると同時にその表現の特質について考える。1階展示場は、4月から第41回成田山全国競書展を開催する。	2月22日（土） ～4月20日（日）

※展覧会名、開催期間については、変更となる場合があります。

2. 普及事業

- ・展示に関連する講演会や解説会の開催。
教育や福祉機関などとの連携。
- ・書道や芸術の啓蒙活動のため、研修室や会議室などの施設貸出。
- ・展示に係わる、ポスター・案内ハガキ・陳列目録の発行および発送。

3. 調査・研究

- ・館蔵作品及び各展覧会開催に伴う調査。
- ・成田山新勝寺および周辺財団で所蔵する美術資料の調査。
- ・学校や地域との連携に関する調査・研究。
- ・書に関する広汎な研究。

寄附金のお願い

成田山書道美術館は、平成4年11月に開館し主に近・現代の書作品を中心に収集し、それらを基に展示普及事業を行い、平成25年3月には、これまでの書道文化振興に資する役割が評価され、成田山文化財団を構成する成田山仏教図書館・成田山霊光館とともに、公益財団法人に認定されました。

今後も老朽化した施設整備を図りつつ、皆様のご期待に添えるよう、魅力ある美術館として活動してまいりますので、温かいご支援をお願いいたします。

【寄附を必要としている事業】

建物・施設整備事業

調査・研究事業

その他、成田山書道美術館の事業運営に係る事業

【寄附単位】

法人 1口 50,000円

個人 1口 10,000円

【特典】

1. 1口につき招待券（個人10枚、法人50枚）を進呈いたします。
2. 成田山文化財団報にご芳名を掲載し、進呈いたします。※掲載の許可をいただいた方のみ
3. ご寄附が10口以上の法人及び個人には感謝状を贈呈いたします。

【申込方法】

所定の「寄附金申込書」(ホームページよりダウンロード)にご記入の上、下記宛てにお申込みください。

【申込受付】

〒286-0023 千葉県成田市成田640

公益財団法人 成田山書道美術館

総務課 寄附金担当

TEL.0476-24-0774 FAX 0476-23-2218

【払込方法】

払込取扱金融機関にて下記の銀行口座への払込をお願いいたします。なお、振込手数料のご負担をお願いいたします。

京葉銀行 成田支店 普通 No.5883361

ナリタサンショドウビジュツカン カンチャウ
タナカ ショウコウ

成田山書道美術館 館長 田中照広

現金でのご寄付は、直接ご持参ください。

【税制の優遇】

当館は、税法上の優遇措置対象となる「公益財団法人」となっており、所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。確定申告時に当館が発行する寄附金受領証明書を税務署に提出してください。詳細については、お近くの税務署にお問い合わせください。

【個人情報の取扱い】

成田山書道美術館が取得した皆様の個人情報は、行政庁への申請書、ご寄付のお願い、当館のお知らせなどの送付以外に利用したり、本人の同意がなく第三者に提供することはありません。

また、取得した個人情報は漏洩・損失・紛失・改ざん・不正利用などを防止するため、法令、指針に従って必要な措置を講じ、個人情報を適切に管理いたします。

【注意事項】

お申込み予定日より10日以内にご入金のない場合、お申し込みはキャンセルとさせていただきます。

理由の如何に問わず寄付後の払い戻しはいたしません。

令和5年度寄付者

●土橋靖子氏

●林弘美氏

●中島靖夫氏

●町山一祥氏

●小川艸岑氏

●玉青会

上記の方々より貴重なご寄付を頂きました。紙面に掲示して、厚く御礼申し上げます。

案内図・利用案内



成田山仏教図書館

開館時間：9時～17時

休館日：月曜日・国民の祝日

毎週火、土曜日を通常開館とし、毎週水、木、金、日曜日は予約閲覧日とし、電話、メール、FAXによるレファランス、閲覧予約をお受けしております。

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩15分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩5分

位置：成田山大本堂左手、聖徳太子堂下

○住所・連絡

〒286-0024 千葉県成田市田町312番地

電話 0476-22-0407 Fax 0476-24-4465

成田山霊光館

開館時間：8時30分～16時30分

休館日：月曜日・国民の祝日

展示は、成田山平和大塔1階霊光殿にて開催（6時～16時・無料）。

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩20分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩15分

位置：成田山平和大塔の後方

○住所・連絡

〒286-0021 千葉県成田市土屋238番地

電話 0476-22-0234 Fax 0476-22-0242

成田山書道美術館

開館時間：9時～16時（入館は15時30分まで）

休館日：月曜日

（祝日の場合は開館し、翌平日が休館）

入館料：大人 500円（300円）

高・大学生 300円（200円）

中学生以下無料

（※カッコ内料金は団体20名以上）

交通

- ・JR成田・京成成田 各駅より徒歩25分
- ・京成成田駅より千葉交通バス「成田山門前」下車 徒歩10分

位置：成田山公園内、三ノ池の畔

○位置・連絡

〒286-0023 千葉県成田市成田640番地

電話 0476-24-0774 Fax 0476-23-2218

令和5年度 成田山文化財団年報 第15号

発行日 令和6年(2024)4月30日
編集発行 公益財団法人 成田山文化財団
連絡先 成田山書道美術館
〒286-0023 成田市成田640
Tel 0476 (24) 0774
